

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

(発行)

会報

第 119 号

平成 29 年 3 月発行

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会
〒105-0012 東京都港区芝大門 1 丁目 10 番 1 号
(全 国 た ば こ ビ ル 内 6 階)
電 話 (0 3) 6 7 2 1 - 5 7 1 0
F A X (0 3) 6 7 2 1 - 5 7 1 1
ホームページアドレス <http://www.zsp.jp/>

ご挨拶

全国肢体不自由特別支援学校 P T A 連合会

会 長 竹 内 ふ き 子

(東京都立城北特別支援学校 P T A 会長)

今年度も終わりを迎えます。会員の皆様におかれましては、本連合会の活動にご理解ご協力いただきましてありがとうございました。北海道東北ブロックで行われた、総会及び全国大会、宮城大会に沢山の方にご出席いただきましてありがとうございます。また、大会運営にご尽力いただきました、船岡特別支援学校、阿部校長先生はじめ、関 PTA 会長さんまたブロックの皆様ありがとうございました。

私たちは普段色々な場面で話を聞くという立場におかれます。研修会、講習会、勉強会、保護者会。それはどこか受け身の心持ちではないでしょうか。話しをどう聞き、自分の何にするのか、求めるものがあるとその時間はとても有意義なものになり、気づきや感じた事は一番聞きたかった話になります。

宮城大会ではワールドカフェの方式で会員懇話会がありました。1つのテーマについて、情報や自己の考えを話します。対一の会話ではなく対話を意識して、この〈聞く〉と〈話す〉の役回りをします。人との関わりが苦手だという人がいますが、この役回りが苦手なのかもしれません。相手の顔を見ながら、声を聞き言葉の中に相手の伝えたいという思いを感じ取る。皆さんが少しの気遣いを持って、まず話かけそして聞く耳を準備する。

1時間が短く感じてしまう程会場全体が対話を楽しみ、実りあるものになりました。

このワールドカフェ方式は各ブロックや学校に持ち帰り、今年度の研修に取り入れていただいた報告を沢山受けました。

大会や研修会での学びが各ブロックへ、単位 PTA へ持ち帰って頂く、繋がりが感じられとても嬉しく思います。来年度は本連合会 60 周年の記念大会が 8 月 20 日～21 日に行われます。皆様のご参加をお待ちしております。

各ブロック報告

北海道・東北ブロック活動報告

札幌市立北翔養護学校 PTA 会長 吉田 美知代

平成 28 年度は 6 月 9 日(木)～10 日(金)、札幌市にて北海道・東北地区特別支援学校肢体不自由教育 校長・PTA 会長合同研究協議会が行われました。

初日に行われた校長部会・PTA 会長部会ではそれぞれのテーマに沿った課題について話し合いを行った後、北海道教育委員会教育委員でもある(株)ワイズスタッフ代表取締役 田澤由利氏による講演「テレワークと障害者雇用」についてお話を頂きました。時間や場所の制約を受けずに柔軟に働くことのできる体制について、卒業後の子供達の進路に向けて大変参考になるお話でした。

2 日目は会場を北海道手稲養護学校に移し、授業見学の後セイコーエプソン(株) 牧田優理氏、山本明彦氏による「ゆめ水族館」について講演を頂いた後、見学・体験を行いました。

大きなスクリーンや柔らかなカーテン、床に広がる水中の映像と幻想的な音響には子供達だけではなく、大人も興奮するほどの迫力でした。

次年度以降も、子供達に伝えたい内容があふれる 2 日間でした。

関東・甲越ブロック活動報告

埼玉県立和光特別支援学校 PTA 会長 高橋 優子

関東P連では、昨年7月31日、8月1日の2日間で埼玉大会を開催し、400名超の多くの皆様にご参加いただきました。1日目は研究協議会提案発表と、日本福祉大学経営学部学部長綿先生による「卒後、地域で暮らすための生活設計～家族が準備しておくこと～」をテーマにした講演を行いました。ご両親が兄弟が障がいを持つご家族の中で育ててきた先生のご講演は、現実的で親として色々と考えさせられたものでした。また、皆様にも大変多くの反響をいただきました。

2日目は、今年度宮城大会でも開催された「グループディスカッション」を行いました。埼玉大会でも好評で、各テールでは防災やPTA活動等様々な話題で盛り上がり、他都県の情報を知る貴重な時間となりました。

埼玉大会を通し、多くの繋がりを大切に、また子ども達の未来に向け、私たち保護者と先生方が力をあわせて各学校、県、関東そして全肢P連で活動していきたいと思えます。

中部ブロック活動報告

静岡県立西部特別支援学校 PTA 会長 大庭 秀一

中部ブロックでは、中部地区肢体不自由特別支援学校 PTA 連絡協議会として、年2回の会合を設けています。

平成28年度第1回は、5月26日～27日に、アクティシティ浜松コンgresセンターにて、総会・研究協議会・連絡協議会・情報交換を行いました。

2回目は、10月6日～7日に、第54回中部地区肢体不自由教育研究大会（愛知大会）をルブラ王山にて、「子どもたちが豊かな生活をはぐくむためのよりよい支援と連携を目指して」をテーマに助言者「社会福祉法人むつみ福祉会」施設長 牧坂浩之氏をお招きし、富山県立総合支援学校 PTA と、岐阜県立関特別支援学校 PTA の2校が、取り組んで来た PTA 活動を発表しました。

第1回の浜松大会では、事前に各校へ、防災に関することを調べてきてもらった為、情報交換が活発になりました。やはり昨今災害が相次いで起こっているためか、皆さん真剣に、意見交換をされていました。防災グッズも、展示しました。

近畿ブロック活動報告

大阪府立藤井寺支援学校 PTA 会長 梅原 佐保子

①平成28年5月26日 総会（参加者116名）・交流会（参加者82名）

事前に全肢P全国大会分科会のテーマである「学校」「地域」「福祉」「進路」「医療」「機器」について全46校がレポートを提出し、その内容をもとに各ブロック（A・B・C）に分かれて意見交換会を行った。各校の特徴や今後の課題等、情報共有ができた。

②平成28年7月5日 夏季研修会 パネルディスカッション（参加者109名）

交流会の内容について、各ブロックでまとめたものをそれぞれ代表者（近肢P連副会長）が発表、質疑応答、課題整理等を行い、全体で共有した。

③平成29年1月26日 冬季研修会（参加者103名）

【第一部】 次年度の全肢P全国大会分科会発表校である大阪府立茨木支援学校より、テーマ「機器」についてのプレ発表を行った。質疑応答も活発に行われ、本発表に向けて有意義なものとなった。

【第二部】 10月に全校が回答した「防災・備蓄についてのアンケート」のまとめについて、副会長より報告があった。防災・備蓄について大変興味深い内容であった。

今後の各校での取り組みに対して大いに参考となった。

中国・四国ブロック活動報告

島根県立松江清心養護学校 PTA 会長 青山 久美子

今年度は、6月に松江市で、総会を開催しました。また、8月には江津清和養護学校が親子ふれあいキャンプを行いました。普段あまり顔を合わせる事のない保護者同士が話をしたり、大道芸や創作活動、乗馬体験、アロマセラピーも体験したりする等、子供達も楽しく過ごせたようです。

11月には、愛媛県松山市でしげのぶ支援学校を事務局に保護者研修会が開かれました。4つの分科会では、全国大会の研修会で好評だったワールドカフェ形式を使って分科会が行われ、参加者全員が意見を出し合い活発で有意義な研修会となりました。

中四国の保護者同士の繋がりは学校や県を超えて、とても厚いものがあります。今年度、私自身もとても大事な繋がりを得たと思っています。

九州ブロック活動報告

熊本県立松橋支援学校 PTA 会長 藤田 靖司

本年度九州ブロックにおいては、4月に発生した熊本地震に伴い、5月27日(金)に「くまもと森都心プラザ」で予定していた九支研役員会並びに PTA 連合会総会が中止になりました。そのため、議事(承認事項)については、九支研事務局がとりまとめ、紙面による報告を行いました。

次に、第53回九州地区肢体不自由教育研究大会(熊本大会)は、10月19日(水)～21日(金)にかけて、ホテルニューオータニ熊本を主会場として開催しました。2日目の分科会(第6分科会)では、自由な発想・疑問等を共有し、多くの知識や洞察を生むことができる「ワールドカフェ」方式による意見交換会を行いました。この方式により、様々な意見が引き出され、積極的な話し合いができました。また、3日目は熊本県立熊本かがやきの森支援学校で校内見学、公開授業等を行い3日間の研究会を閉じました。

平成28年度全国心身障害児福祉財団事業 【国庫補助事業】

〈保護者研修〉

○本部 平成29年1月12日(木)

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者 130名

テーマ 『介護が楽になる身体の使い方』

講師 身体技法研究者 甲野 陽

肢体不自由児の保護者にとってわが子の介助は必須です。しかし保護者の身体はだんだん厳しくなるばかりです。少しでも自分の身体が無理なくできたらと考えます。

そこで、力任せに介助するのではなく、日本に古くから伝わってきた武術の身体の使い方や考え方を取り入れて身体運用の改善と介護技術への応用の取組を伝授して頂きました。



○中部ブロック 平成28年6月25日(土)

会場 富山県高岡市立こまどり支援学校

参加者 30名

テーマ① 『身近でできる防災対策』

講師 富山県防災士会 吉澤 実

テーマ② 『非常時の防災グッズの作り方』

講師 富山県防災士会 代表理事 大坪 清治

近年、国内では地震や津波、台風等の自然災害により大きな被害が起っています。そこで、保護者研修会では、富山県防災士会から講師を招き、防災についての研修会を行いました。

テーマ①では、「身近でできる防災対策」について講演を聞きました。熊本地震を例にとり、各地の被害状況等のデータから熊本地震の様子について詳しく教えていただきました。また、地震は繰り返す起こることは変わらないこと、住民の意識を減災に向けて変えていくことが大切であることを学びました。障害者のための日頃の準備や減災について、具体的に教えていただきました。

テーマ②では、「非常時の防災グッズの作り方」について実技研修会を行いました。ダンボールや新聞紙等を使って、簡易トイレやスリッパ、コップを作りました。

参加者からは、「富山県は地震もなく安全な所だと思っていたが、いつ地震が起きてもおかしくない。日頃から準備をしたい」等の感想があり、防災意識が高まりました。



〈親子ふれあいキャンプ療育〉

○中国・四国ブロック 平成28年8月21日(土)～22日(日)

担当校 島根県立江津清和養護学校

会場 本校及びかなぎライディングパーク

参加者 60名

テーマ①『親子で夏祭り「みて、ふれて、楽しもう」』

講師 中島 結都 他1名

テーマ②『親子アロマセラピー「ゆっくりリラックス」』

講師 河野 希

「親子で夏祭り」の活動では、大道芸の見学・体験やシャボン玉体験、バルーンアート体験をしました。視覚や聴覚、触覚など五感を使って参加者一同楽しむことができました。

「親子アロマセラピー」では、ホースセラピーとアロマセラピーの2グループに分かれて身体を癒し、心を豊かにしながら活動に取り組みました。

親子間だけでなく、保護者間の親交も深めることができた2日間でした。



○九州ブロック 平成28年7月21日(木)～22日(金)

担当校 大分県立別府支援学校

会場 大分県立別府支援学校、別府亀の井ホテル

テーマ①『子供の身体の理解を支援する方法』

講師 別府市総合教育センター 富田 薫

テーマ②『みんなで演奏しよう』

講師 福岡県立築城特別支援学校 元教諭 櫻木 育美

7月21日(木)から1泊2日で「親子ふれあいキャンプ」を実施しました。1日目は別府支援学校多目的ホールにおいて、「子どもの身体の理解と支援方法」のテーマのもと、2名の講師に参加していただきました。講師の先生方が、保護者や子どもたち一人ひとりに対して、身体の特徴や課題などを細かく説明しながら、ストレッチやマッサージなどの具体的な方法を指導していただきました。また、保護者の方々も、実際に自分の体で動きを体験することにより、支援方法や細かな配慮などを学習できた様子でした。その後、別府市内にある「別府亀の井ホテル」に移動し、別府ならではの温泉を大浴場で楽しみ、子どもたちも大満足でした。2日目は、「みんなで演奏会」のテーマで、音楽に合わせて体を動かしたり、それぞれが好きな楽器を演奏したりと、音楽とダンスに盛り上がり、笑顔あふれる時間を過ごすことができました。保護者の方々も、懐かしのフォークダンスや往年の名曲を子どもたちと一緒に楽しみました。夏休みに入ってすぐの2日間の活動を通して、親子の絆が深まるとともに、楽しい思い出をつくることができました。



〈ボランティア研修〉

○中国・四国ブロック 平成28年10月19日(水)

担当校 徳島県立ひのみね支援学校

会場 徳島県立ひのみね支援学校

参加者 59名

研修①『障がいのある子どもを育てて思ったこと』

発表者 平成25年度本校PTA会長 福本 架代

PTA活動を通して「逃げないこと・立ち向かうこと」を学んだこと、子育ての中で悩んだことや兄弟の心の成長に触れることができたこと、身近なところからできるボランティアの紹介などの発表がありました。



研修①

研修② 『障がいのある子どもさんとのコミュニケーション』

講師 徳島ランゲージ・ラボ代表 野津 敬

地元でカウンセリングルームを開設されている講師の先生より障がいのある子どもさんの特性とコミュニケーションの方法について、脳の情報処理という視点からお話をいただきました。アイデアおもちゃでの遊びの実演をまじえながら、子どもたちとの関わりの方法や遊びを通して、子どもたちの「あれっ?」「なんだろう」「おもしろい!」という気持ちを引き出すヒントが紹介されました。



研修②

研修③ 実技『一緒に体験してみよう』

本校の児童生徒を交えたグループに分かれて、「スノーズレン」、「ハンドアーチェリー」、「おもちゃ制作と遊び」の各実技体験を行いました。

スノーズレンルームでは光や音、振動を感じるバブルチューブやウォーターベッド、大型クッションなどの体験、ハンドアーチェリーは実際に中学部、高等部の「体育」の授業で行っている様子の参観や実技、おもちゃ作りは野津先生に教えていただきながら、握るとケチャップの糸がピコッと飛び出るおもちゃ、音が鳴る風船、ミニ扇風機を改造したパイプレーションのおもちゃにチャレンジしました。



研修③

○近畿ブロック 平成 28 年 11 月 22 日(火)

担当校 兵庫加古川市立加古川養護学校

会場 兵庫加古川市立加古川養護学校 体育館

参加者 104 名

テーマ① 『子どもたちが地域で暮らすこと～熊本地震の対応について～』

講師 熊本再春荘病院小児科医、NPO 法人 NEXTEP 代表 島津 智之

講演では熊本地震の非常事態の状況下での先進的取り組みには、大変感銘を受けました。「行ったことのない避難所、会ったことのない人に頼れるか。災害は弱い人をさらに弱い立場にする。普段からネットワークをもっていない人が取り残される傾向にある。多様性を否定する社会に発展はない。」という言葉が大変印象的でした。日頃の信頼関係づくり、細かな情報収集の積み重ねがあるからこそ、いざという時に生きたネットワークとして発揮されるということ。また、その根底には即行動に移す行動力と柔軟な考え方の大切さを学びました。その後グループワーク（1グループ8名程度）にて、「いま、私たちにできること」について話し合いました。ここでは、重症心身障がい児をもつ保護者の切実な不安や、事業所の抱えるマンパワーを含めた対策不足。つまりはネットワークの脆弱さや必要性を実感するきっかけにもなりました。



テーマ② 『肢体不自由児との関わりについて』

講師 剣物 和弘 本校教師による体験研修を行いました。

ここでは二人一組のペアで、実技を通して、要望を言語化できない状況で必要となる個々の情報、多面的な知識や観察の大切さ、理解しようとする思いの大切さを改めて学びました。今回の参加者は教育・福祉・医療関係者、地域や保護者、一般大学生など多様な職種や立場の方々に、もし災害が起きた場合に備え、「互いの状況を理解しあう」「そこから何ができるのか」、ネットワークづくりを一歩ずつ地道に作り上げていくことの重要性を感じた有意義な時間でした。



第35回（平成28年度）「肢体不自由児・者の美術展」
及び平成28年度「肢体不自由児・者デジタル写真展」

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会賞

絵画の部 「夜の花」 印口 来惟（12歳） 鹿児島県立鹿児島養護学校



全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

書道の部 「笑」 小野寺 柚（17歳） 秋田県立きらり支援学校

